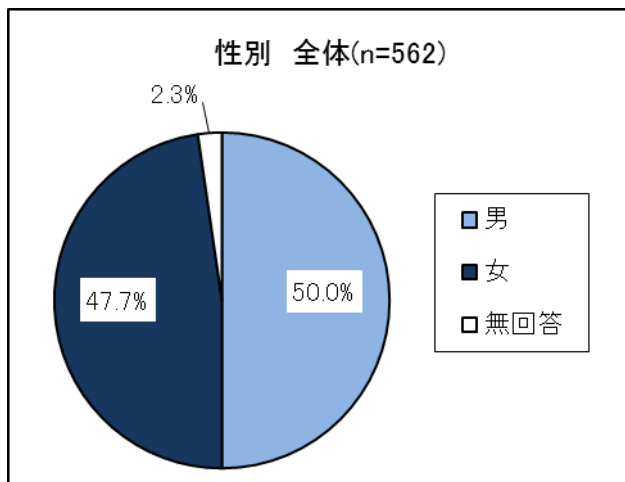


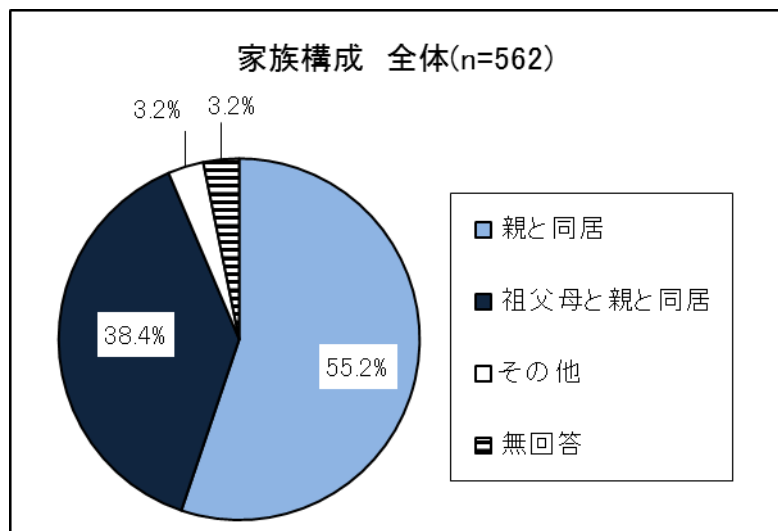
Ⅲ 高校生 調査結果

■回答者の属性

① 性別



② 家族構成



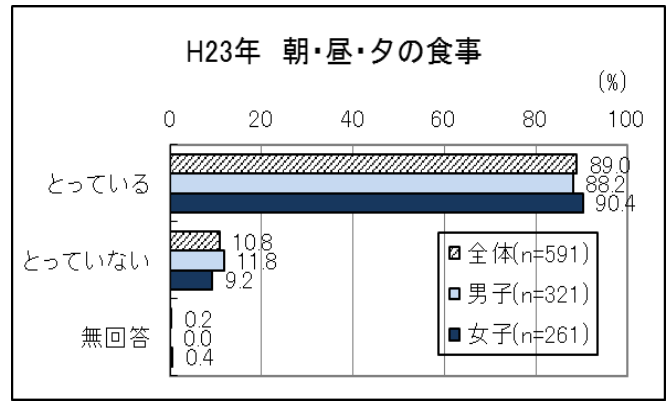
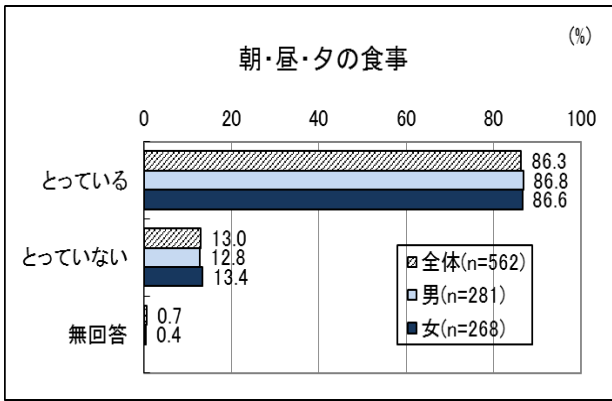
1. 食事について

問1 毎日の食事は朝・昼・夕の3回とっていますか。 (○は1つだけ)

◆ 「3食とっていない」人は全体の13.0%で、前回より2.2%増えている

全体では、3食とっている人は86.3%、3食とっていない人は13.0%となっています。平成23年調査と比較すると、摂食率は若干減少しています。性別では、男女でほとんど差は表れませんでした。

Ⅲ 高校生 調査結果



問2 ふだん朝食を食べますか。

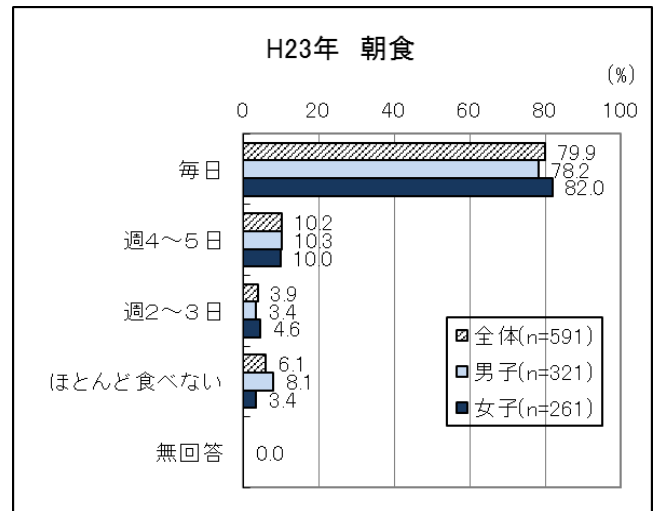
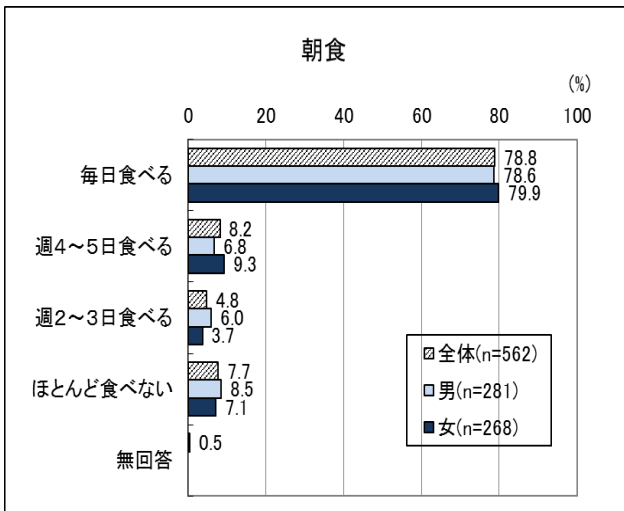
(○は1つだけ)

◆ ほとんど食べない人は7.7%で、前回よりも若干増えている

全体では、「ほとんど毎日食べる」(78.8%)が最も多く、「週に4～5日食べる」(8.2%)、「週に2～3日食べる」(4.8%)、「ほとんど食べない」(7.7%)となっています。

性別では、男女でほとんど差は表れませんでした。

平成23年調査と比較すると、週に4日以上食べる人は若干減少しています。



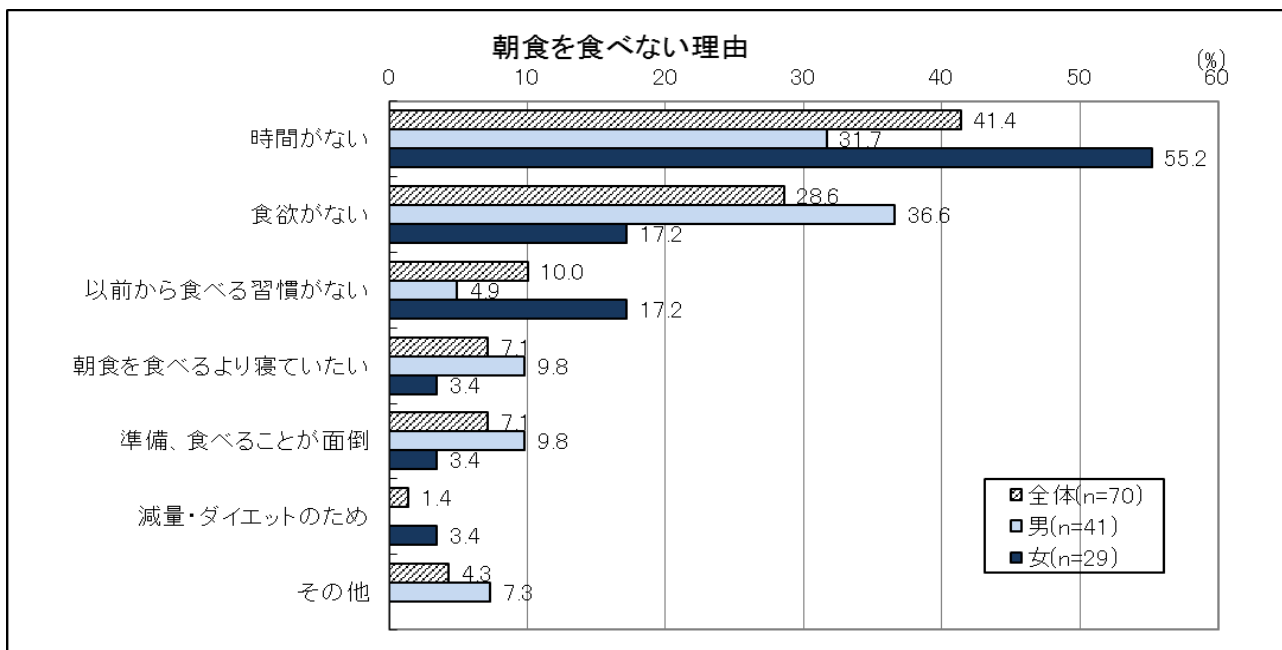
問3 問2で「3. 週に2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方にお聞きします。朝食を食べない理由は何ですか。(○は1つだけ)

◆ 最も多い理由は、「時間がない」で41.4%

全体では、「時間がない」(41.4%)が最も多く、「食欲がない」(28.6%)、「以前から食べる習慣がない」(10.0%)と続いています。

性別で見ると、女性は「時間がない」が55.2%で圧倒的に多く、男性は「食欲がない」が36.6%で最も多いという結果となりました。

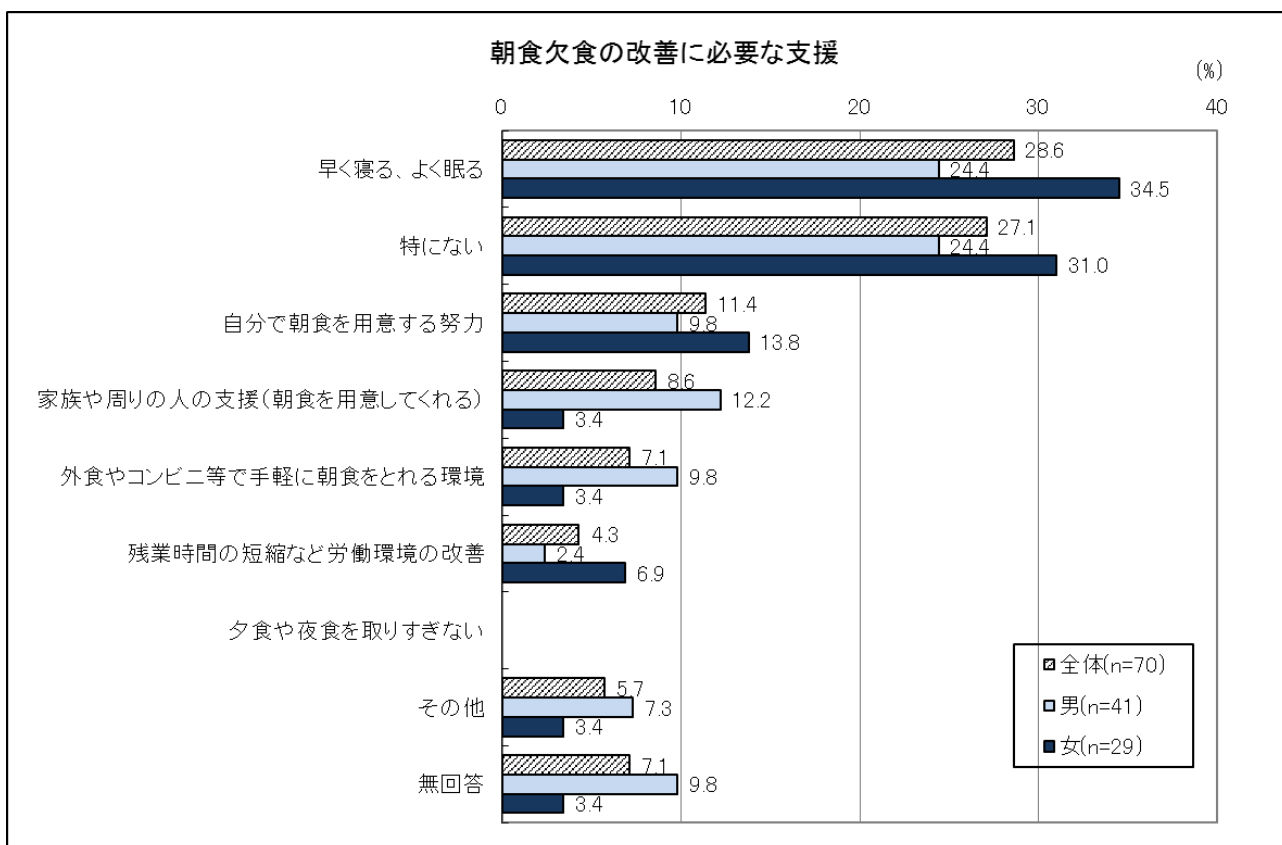
Ⅲ 高校生 調査結果



問4 問2で「3. 週に2～3日食べる」「4. ほとんど食べない」と答えた方にお聞きします。朝食欠食の改善に必要な支援は何ですか。
(○は1つだけ)

◆ 全体の4分の1以上は「早く寝る、よく眠る」と答えている

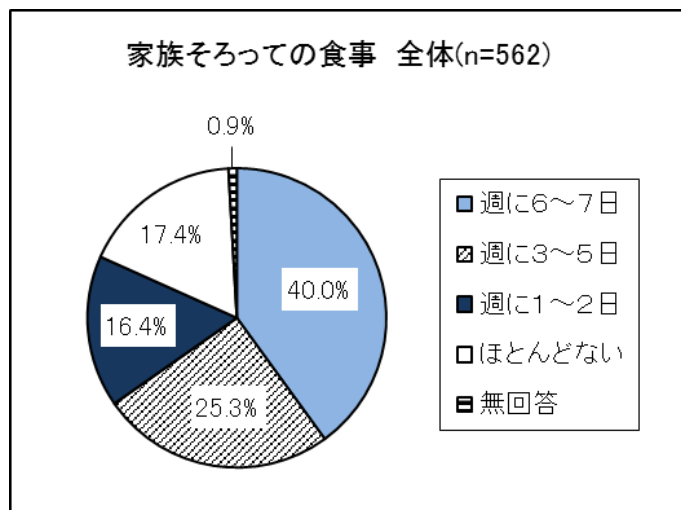
全体では、「早く寝る、よく眠る」(28.6%)が最も多く、朝食欠食の改善を目標にした取り組みが考えられていますが、「特にない」(27.1%)と朝食欠食の改善を求めている人も見受けられます。



問5 家族そろって食事をすることはどのくらいありますか。
 (1日1回でも家族そろって食事をすれば1日とする。) (○は1つだけ)

◆ 「週に3日以上」家族そろって食事をする人は6割以上いるが、家族そろって食事をすることがほとんどない人も2割弱いる。

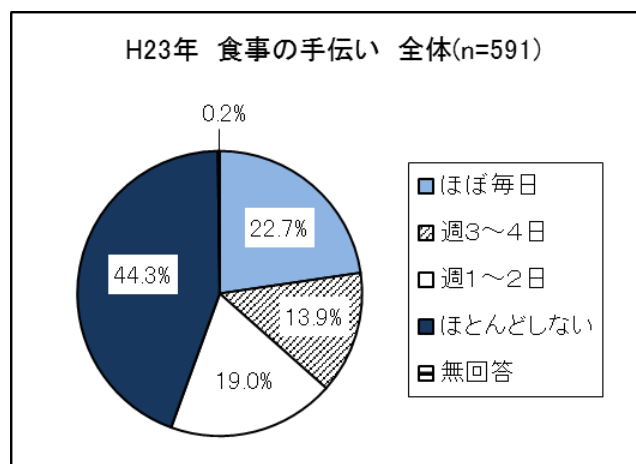
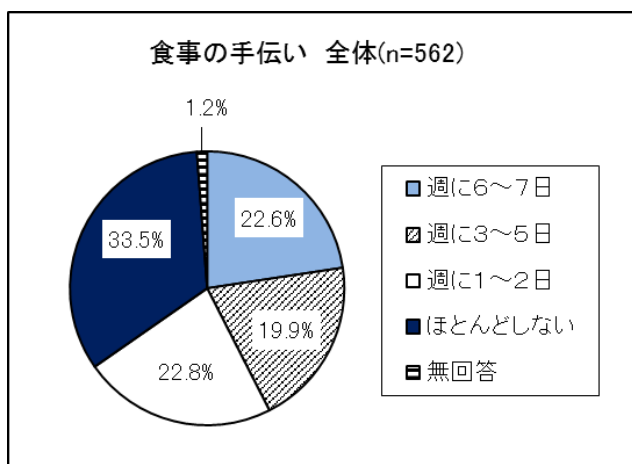
全体では、「週に6～7日」(40.0%)が最も多く、「週に3～5日」(25.3%)、「ほとんどない」(17.4%)、「週に1～2日」(16.4%)と続いています。



問6 食事の準備や後片付け等の手伝いをどのくらいしていますか。
 (○は1つだけ)

◆ 食事の準備や後片付けをほとんどしない人は前回よりも10.8%減少したものの、依然として全体の約3分の1は手伝っていない

「ほとんどしない」(33.5%)が最も多く、「週に1～2日」(22.8%)、「週に6～7日」(22.6%)、「週に3～5日」(19.9%)と続いています。



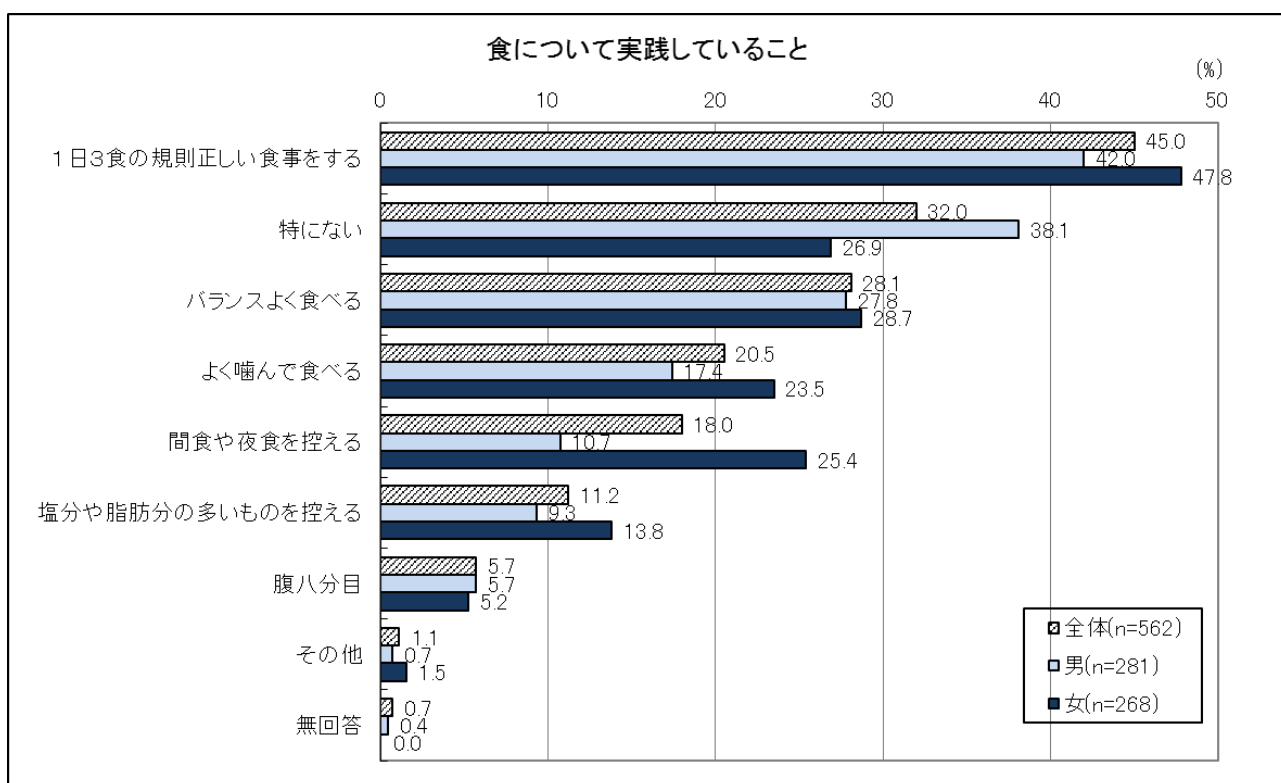
2. 食生活について

問7 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから食について実践していることは何ですか。 (〇は3つまで)

◆ 全体の7割弱の人が、食について何かしら実践している

全体では、「1日3食の規則正しい食事をする」(45.0%)が最も多く、「バランスよく食べる」(28.1%)、「よく噛んで食べる」(20.5%)と続いています。しかし、約3分の1は、「特にない」(32.0%)と答えています。

性別で見ると、ほとんどの項目において、男性よりも女性が多く実践していることがわかります。



3. 食育について

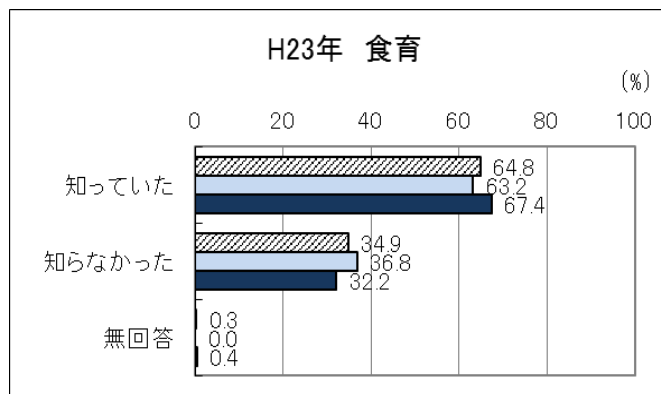
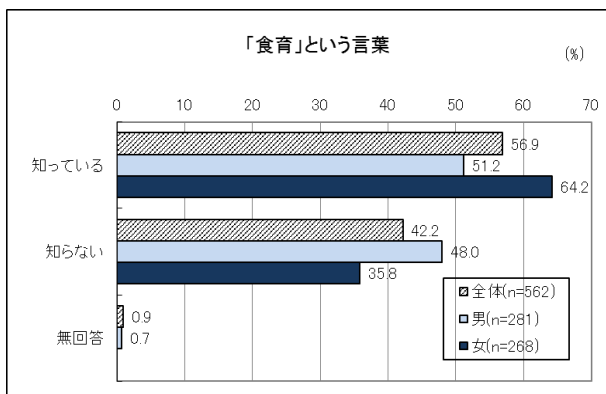
問8 「食育」という言葉を知っていますか。 (〇は1つだけ)

◆ 「食育」という言葉を知っている人は半数以上いるが、前回よりも7.9%減っている

「知っている」人は56.9%、「知らない」人は42.2%です。平成23年調査と比較すると、「知っている」人は7.9%減少し、「知らない」人は7.3%増加しています。

性別で見ると、「知らない」人は、男性が女性を大幅に上回っており、関心の違いが顕著に表れています。

Ⅲ 高校生 調査結果



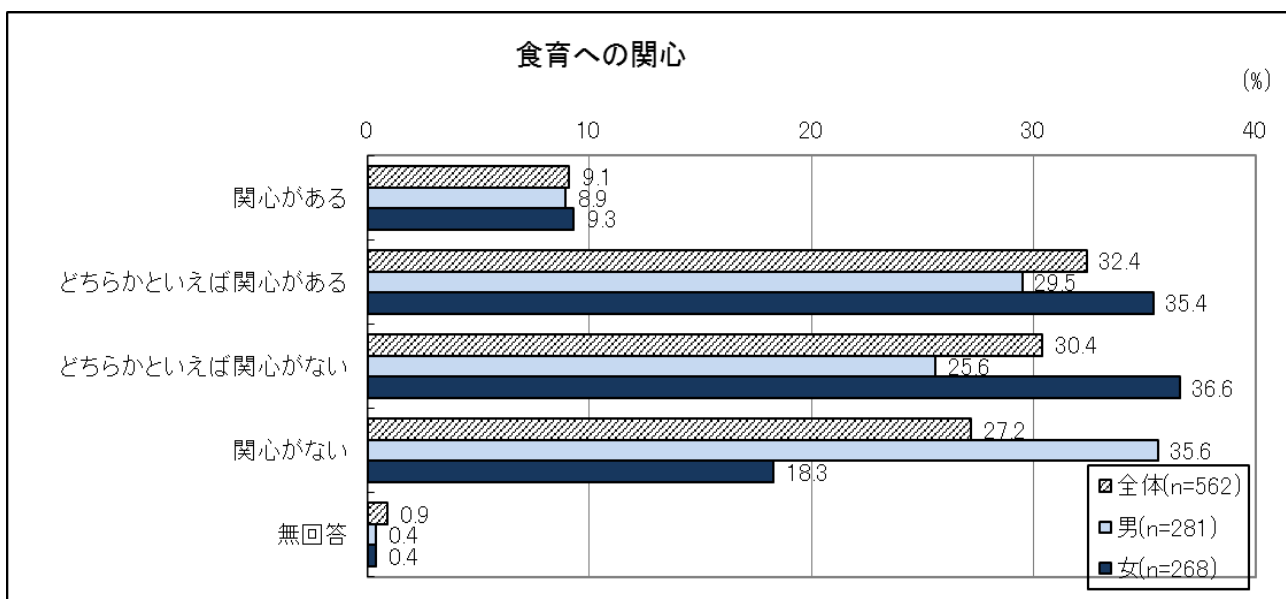
問9 「食育」に関心がありますか。

(○は1つだけ)

◆ 男性で最も多かったのは「関心がない」(35.6%)、女性で最も多かったのは「どちらかといえば関心がない」(36.6%)

「食育」に関心がない人(どちらかといえば関心がないを含む)(57.6%)が、「食育」に関心がある人(どちらかといえば関心があるを含む)(41.5%)を大きく上回っている。

性別でみると、男性は6割以上の方が「関心がない」(どちらかといえば関心がないを含む)と答え、女性も半数以上が「関心がない」(どちらかといえば関心がないを含む)と答えています。



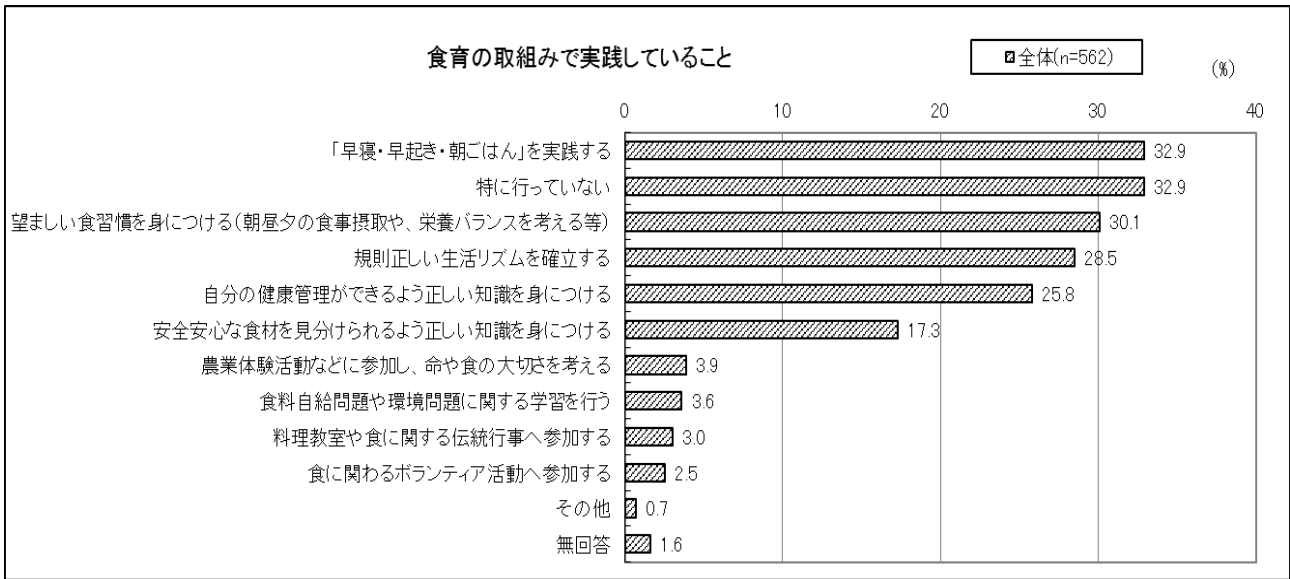
問10 高校生に期待する食育の取組みとして次のようなものがありますが、現在、あなたが実践していることはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

◆ 最も実践されていることは、「早寝・早起き・朝ごはん」で32.9%

Ⅲ 高校生 調査結果

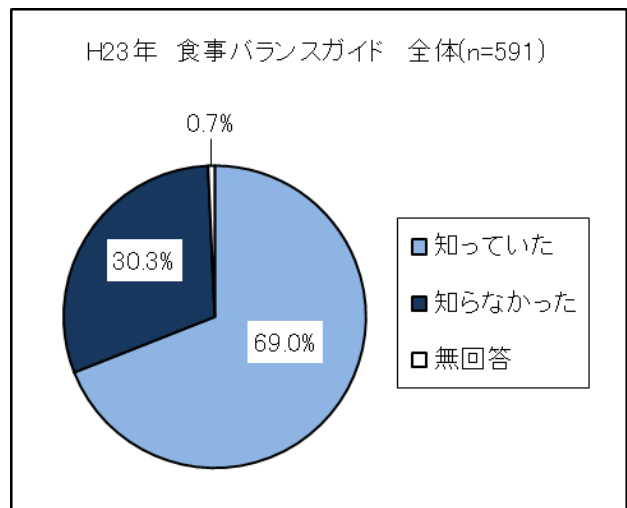
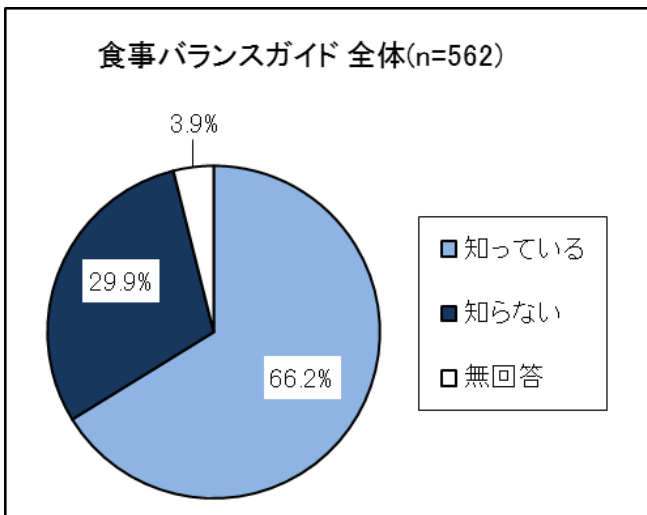
全体では「早寝・早起き・朝ごはん」(32.9%)が最も多く、「望ましい食習慣を身につける(朝昼夕の食事摂取や、栄養バランスを考える等)」(30.1%)、「規則正しい生活リズムを確立する」(28.5%)と続いています。



問 11 コマ型の「食事バランスガイド」を知っていますか。(○は1つだけ)

◆ 全体の約3割が知らないことから、「食事バランスガイド」が浸透していない

「知っている」と答えた人は66.2%で、「知らない」と答えた人は29.9%です。
平成23年調査と比較すると、認知度が若干減少したものの、ほぼ同様の結果となりました。



4. 環境について

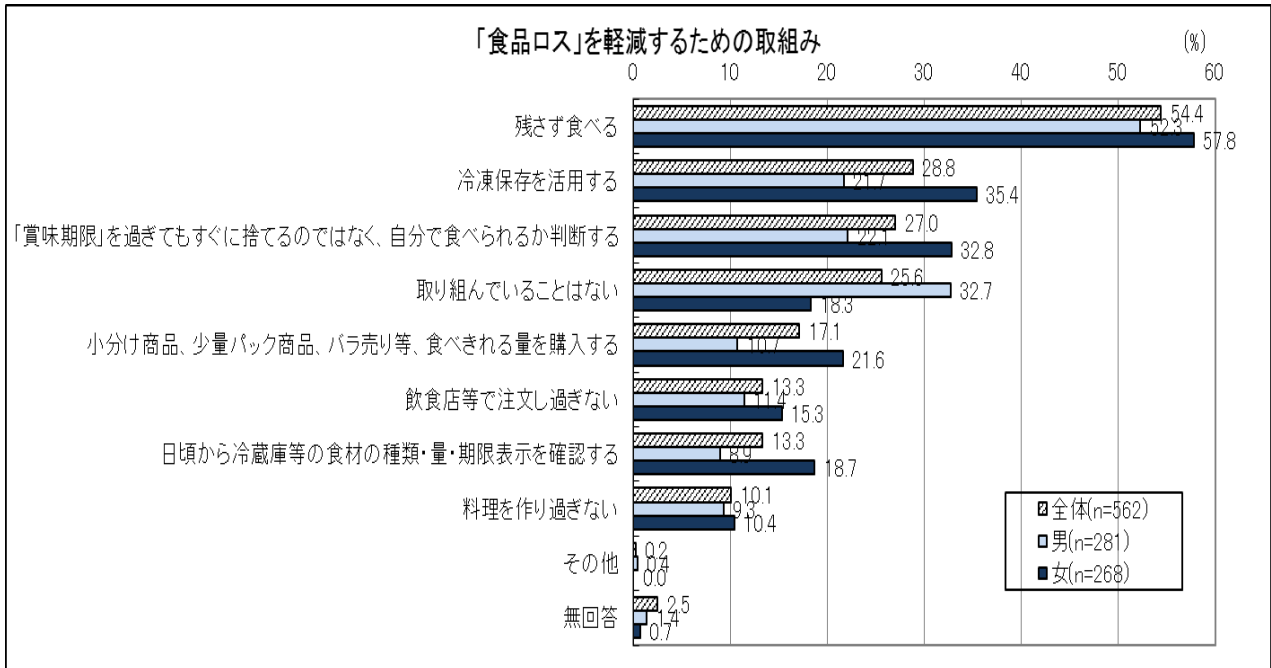
問 12 「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

Ⅲ 高校生 調査結果

◆ 「食品ロス」を軽減するために何らかの取組みをしている人は全体の約4分の3で、問題意識は高い

全体では、「残さず食べる」(54.4%)が最も高く、「冷凍保存を活用する」(28.8%)、「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(27.0%)と続いています。

性別でみると、取り組んでいることすべての項目において女性が男性を上回っており、意識の違いが顕著に表れています。



5. 観光について

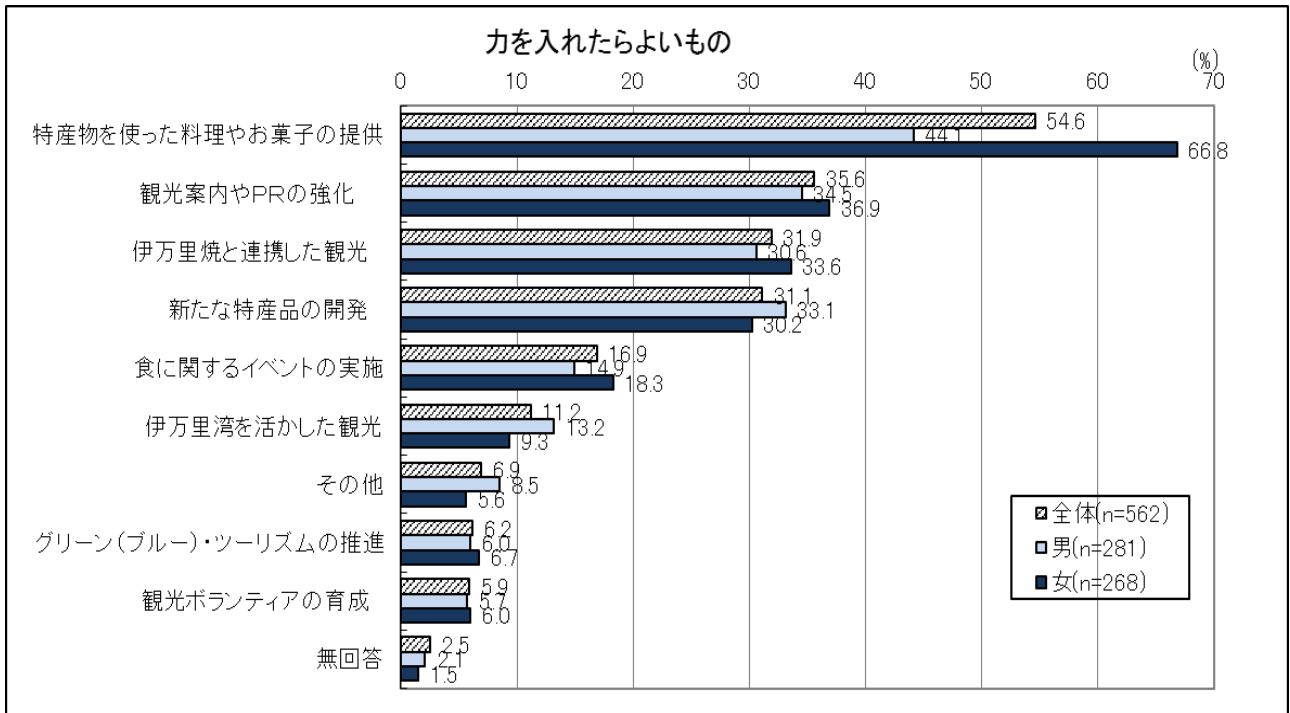
問 13 伊万里を訪れる人々が、また来てみたいと思うまちにするためには、何に力を入れた方がいいと思いますか。(〇は3つまで)

◆ 全体、男性、女性いずれにおいても、「特産物を使った料理やお菓子の提供」が最も多いという結果になった

全体では、「特産物を使った料理やお菓子の提供」(54.6%)が最も高く、「観光案内やPRの強化」(35.6%)、「伊万里焼と連携した観光」(31.9%)と続いています。

性別でみると、男女ともに「特産物を使った料理やお菓子の提供」に力を入れた方がいいと答えています。

Ⅲ 高校生 調査結果



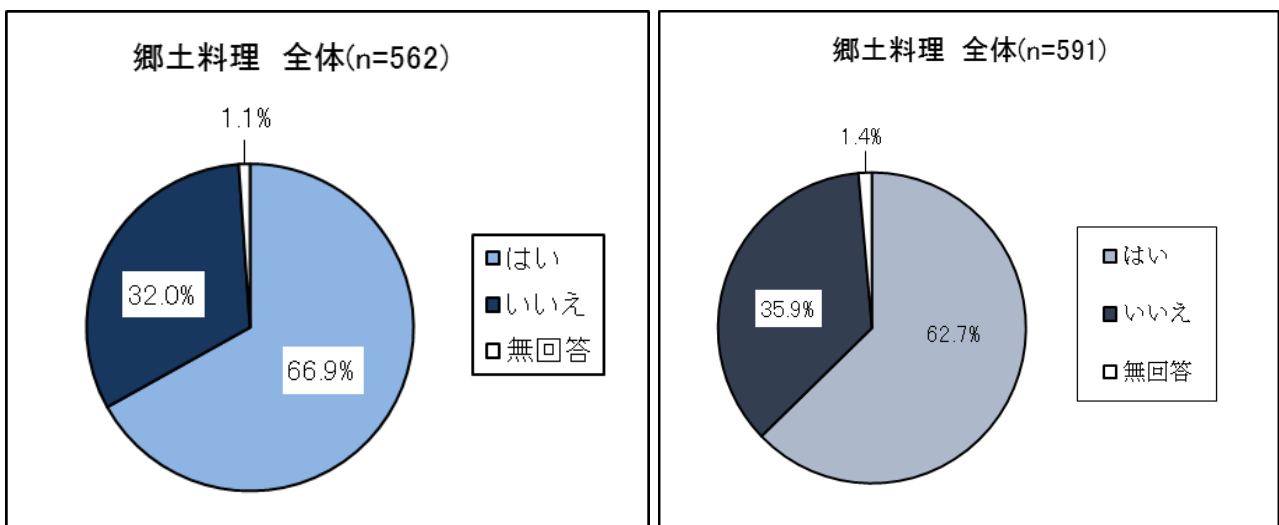
6. 伊万里のことについて

問 14 伊万里の郷土料理を食べたことがありますか。 (○は1つだけ)

◆ 郷土料理を食べたことがある人は7割弱で、前回と比較すると、17.2%減っている

全体では、食べたことがある人は66.9%で、食べたことがない人は32.0%です。

平成23年調査と比較すると、食べたことがある人は84.1%から17.2%減少しており、郷土料理離れが深刻化してきています。



問 15 伊万里の特産物の中で、知っているものはどれですか。

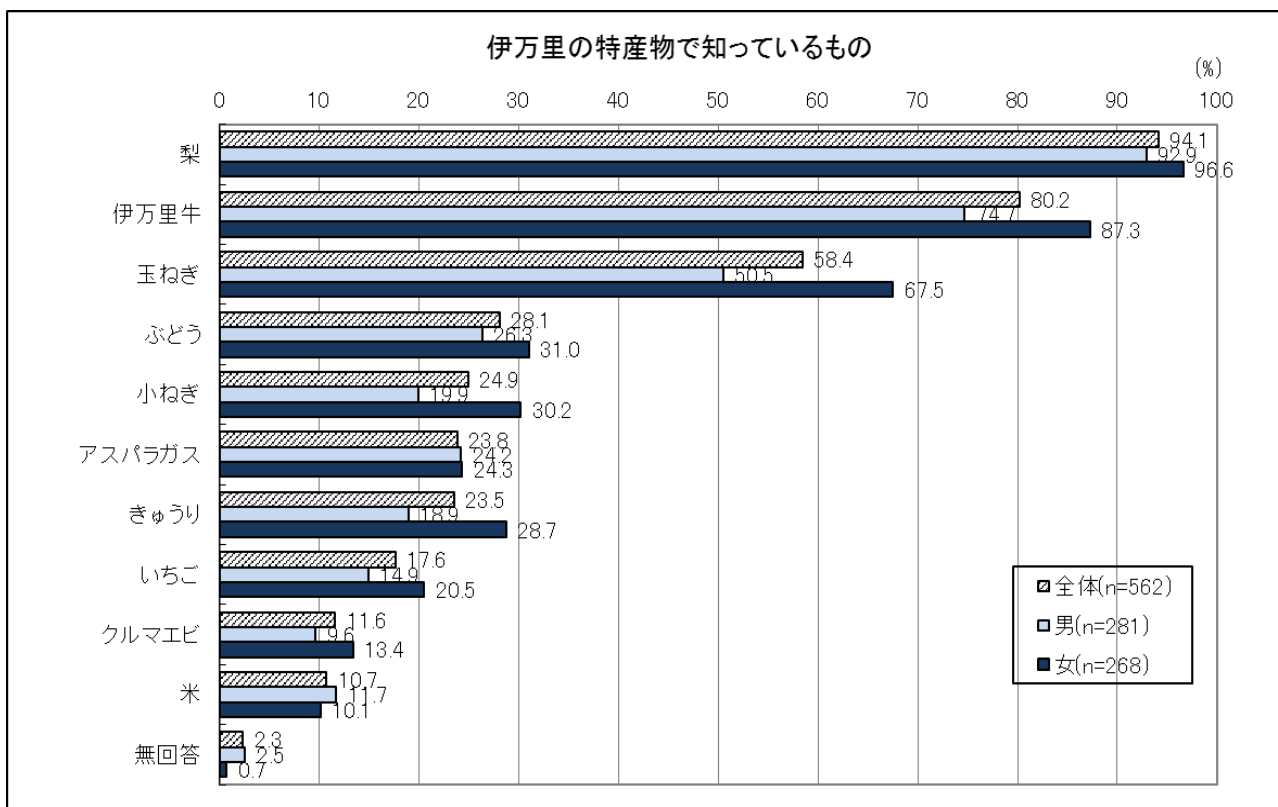
※ 平成 27 年度農畜水産物販売額の上位より抽出。

(あてはまるものすべてに○)

◆ 伊万里の特産物で最も知られているのは「梨」

全体では、「梨」(94.1%)が伊万里の特産物として最も多くの人に知られており、「伊万里牛」(80.2%)、「玉ねぎ」(58.4%)、「ぶどう」(28.1%)と続いています。

性別で見ると、ほとんどの特産物において、男性より女性の方が知っていることから、女性の方が特産物への関心が高いといえます。



問 16 伊万里市が「食のまちづくり宣言」をしていることを知っていますか。

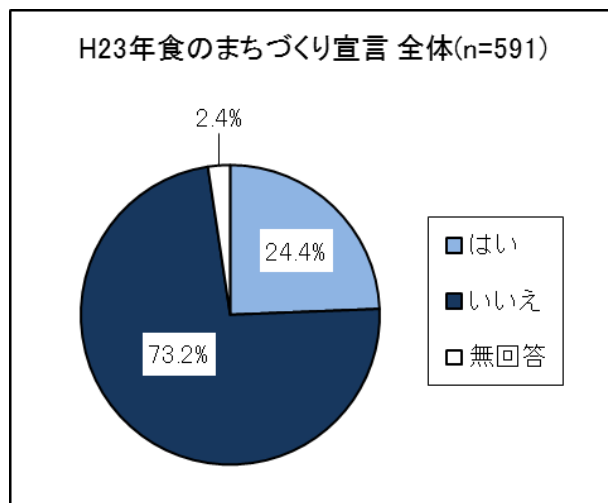
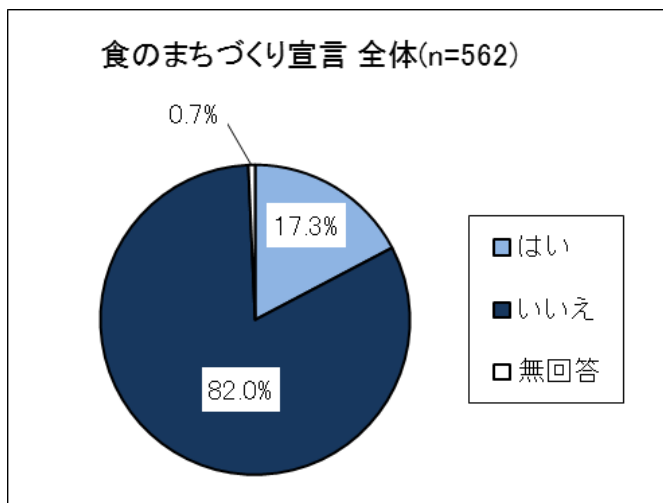
(○は1つだけ)

◆ 伊万里市が「食のまちづくり宣言」をしていることを知っている人は2割弱で、前回より7.1%減っている

全体では、知っている人は17.3%で、知らない人は82.0%です。

高校生は、20歳以上の市民よりも圧倒的に「食のまちづくり宣言」が浸透していないことがわかります。

Ⅲ 高校生 調査結果



問 17 将来、食に携わる仕事に就きたいと思いませんか。 (○は1つだけ)

◆ 将来、食に携わる仕事に就きたいと思う人は1割強

全体では、将来、食に携わる仕事に就きたいと思っている人は14.2%、そう思っていない人は85.1%で、食に携わる仕事に対する考えが顕著に表れました。

